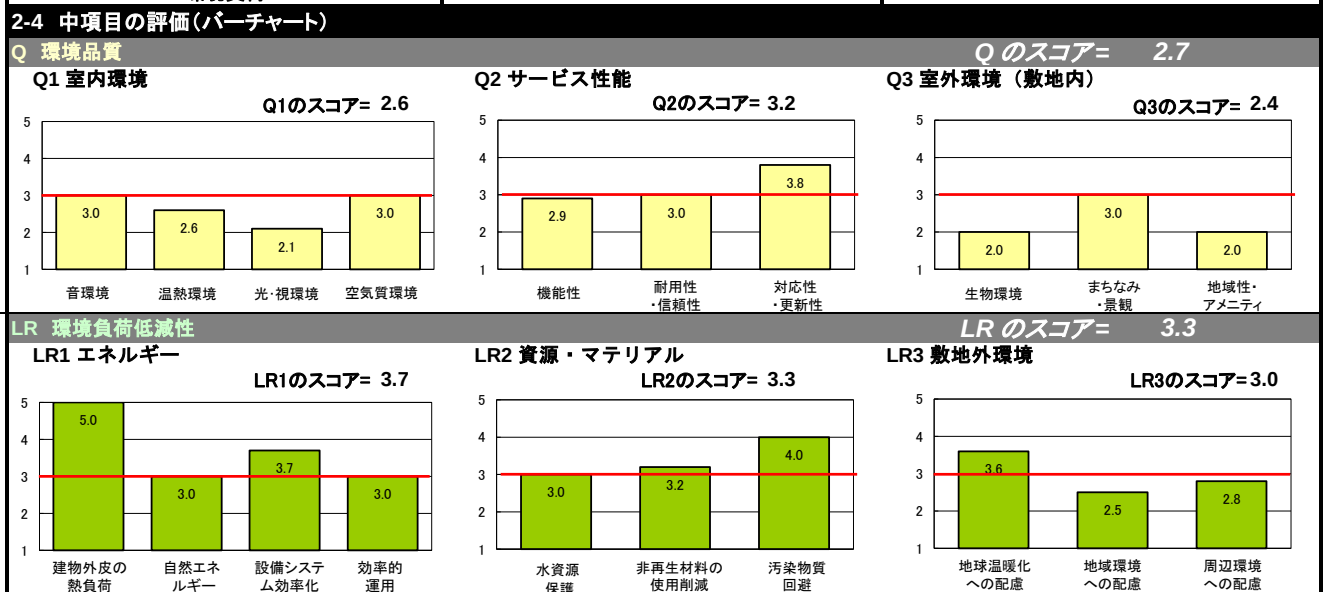
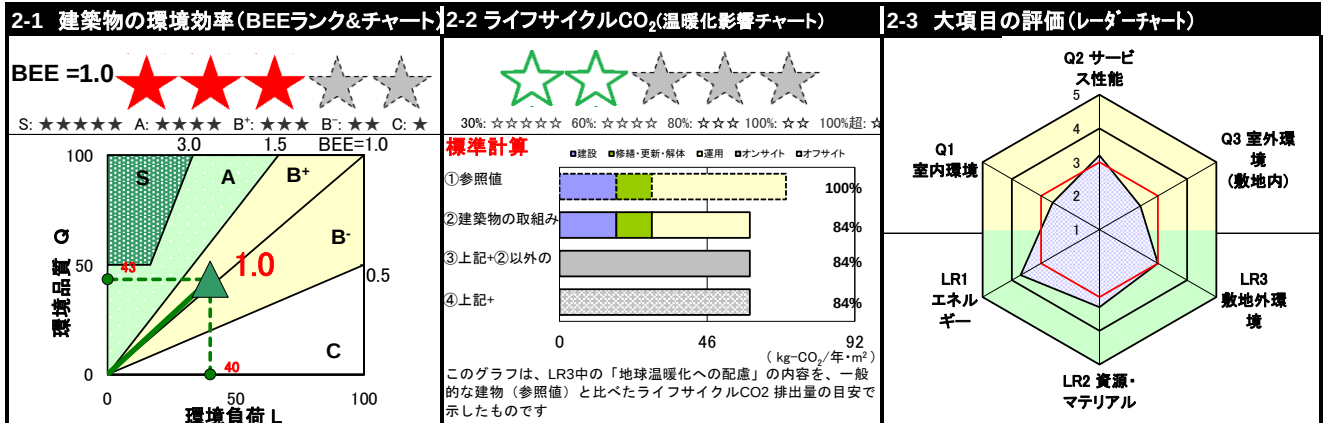




評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システムマニュアル(2016年改訂) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(株)ヤナセ名古屋支店 工場棟	階数	地上3F
建設地	名古屋市名東区高社二丁目262番1、262番2、262番3	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	10 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,900 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年6月 予定	評価の実施日	2024年10月23日
敷地面積	1,128 m ²	作成者	
建築面積	760 m ²	確認日	2024年10月24日
延床面積	2,020 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項	
総合	その他
高温排熱機器を使用しないことで敷地内の温熱環境や大気汚染防止を図るとともに、高効率の設備機器(LED照明器具・COPの高い空調機器)や節水型の衛生器具を採用することによって省エネルギーに努めました。また、敷地外に十分な駐車スペースを確保することで、敷地周辺の交通負荷を抑制するように努めました。	
Q1 室内環境 壁・天井の仕上げ材にはF☆☆☆☆の建材を使用することで有害物質の発散を抑えるよう配慮しました。パッケージ型の空調機を採用することでエリアごとの個別の空調が可能な計画としました。	Q2 サービス性能 内装仕上げには防汚性の高い維持管理のしやすい材料を採用しました。外部には耐久性の高い材料を採用しました。また、構造躯体を痛めることなく設備機器等のメンテナンスや更新が可能な計画としました。
Q3 室外環境(敷地内) 建物用途への要求から地域の生物環境の保全や創出に關しての配慮は計画に生かせない部分があります。屋外の車路の横や屋上等の余剰空間には、芝やセダムによる緑化施設を計画しました。	LR1 エネルギー 高効率の設備機器を採用しています。事務所スペースにはLED照明器具を適切に配置しました。空調機器もCOPの高い機器を採用し省エネルギーに努めています。
LR2 資源・マテリアル 節水型の衛生器具を採用しました。仕上材や接着剤は有害物質を含まないものを採用しました。	LR3 敷地外環境 室外機の設置場所は視覚的にも騒音・排熱の面からも影響の少ない位置としました。作業場や自動車の収納スペースも敷地外から直接視界に入らない計画として周囲の環境との調和を図りました。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(株)ヤナセ名東支店 工場棟

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.6
LR1	エネルギー	3.8	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.6	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.118203651	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.011820365	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.059101825	
3. 循環型社会				3.1
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.2	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.6



2. 自然共生

評価点 = 1.9



3. 循環型社会

評価点 = 3.1



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。